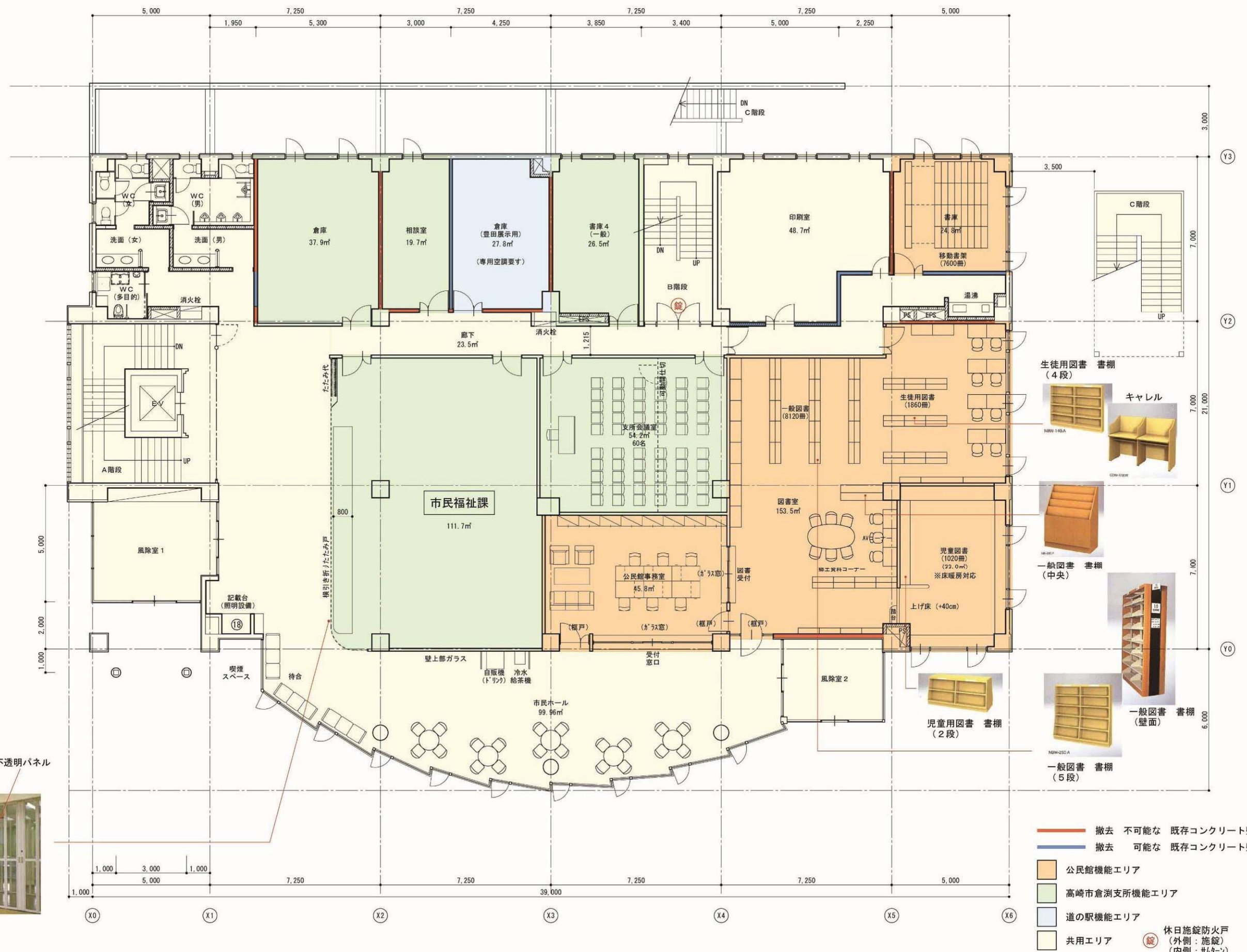
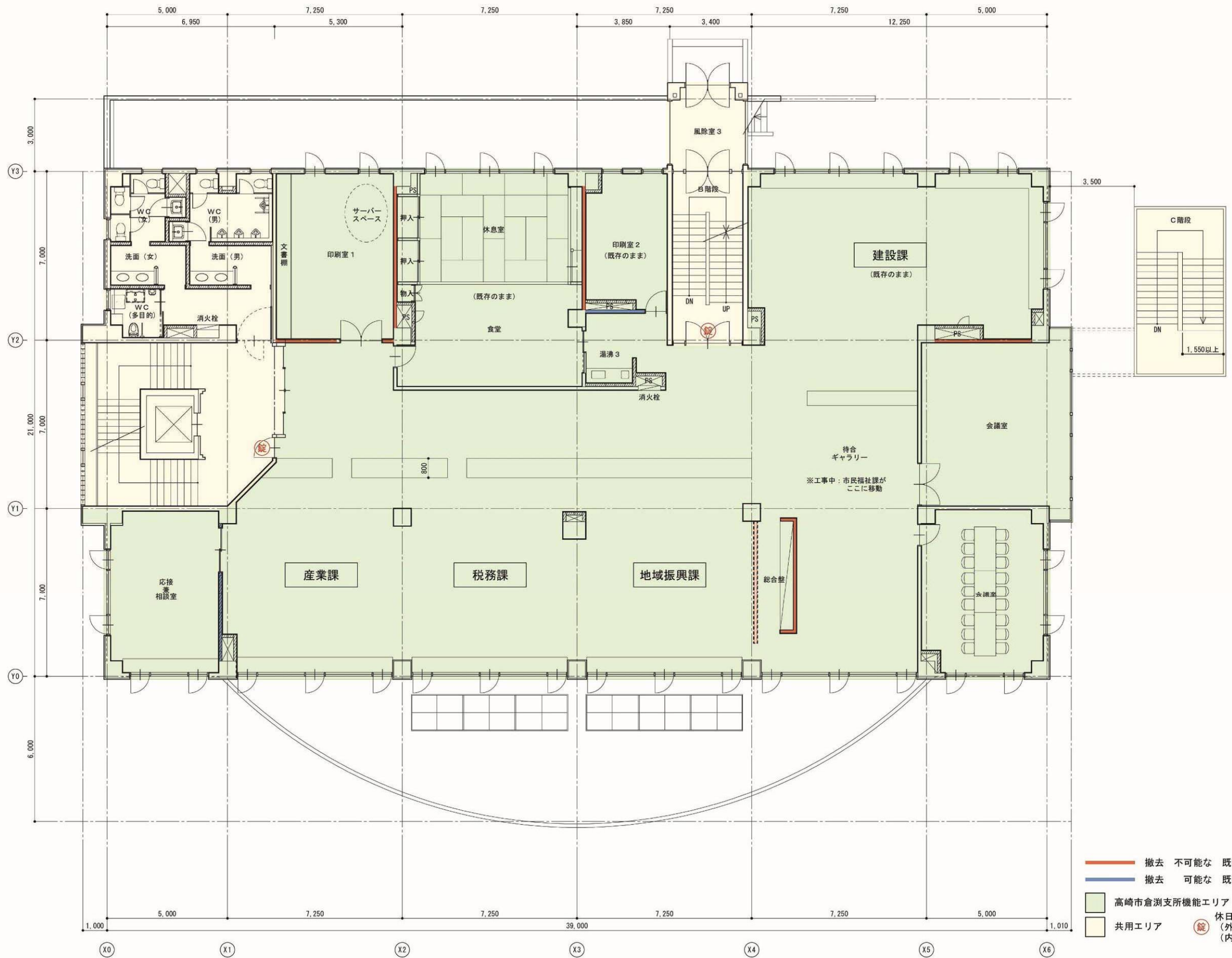


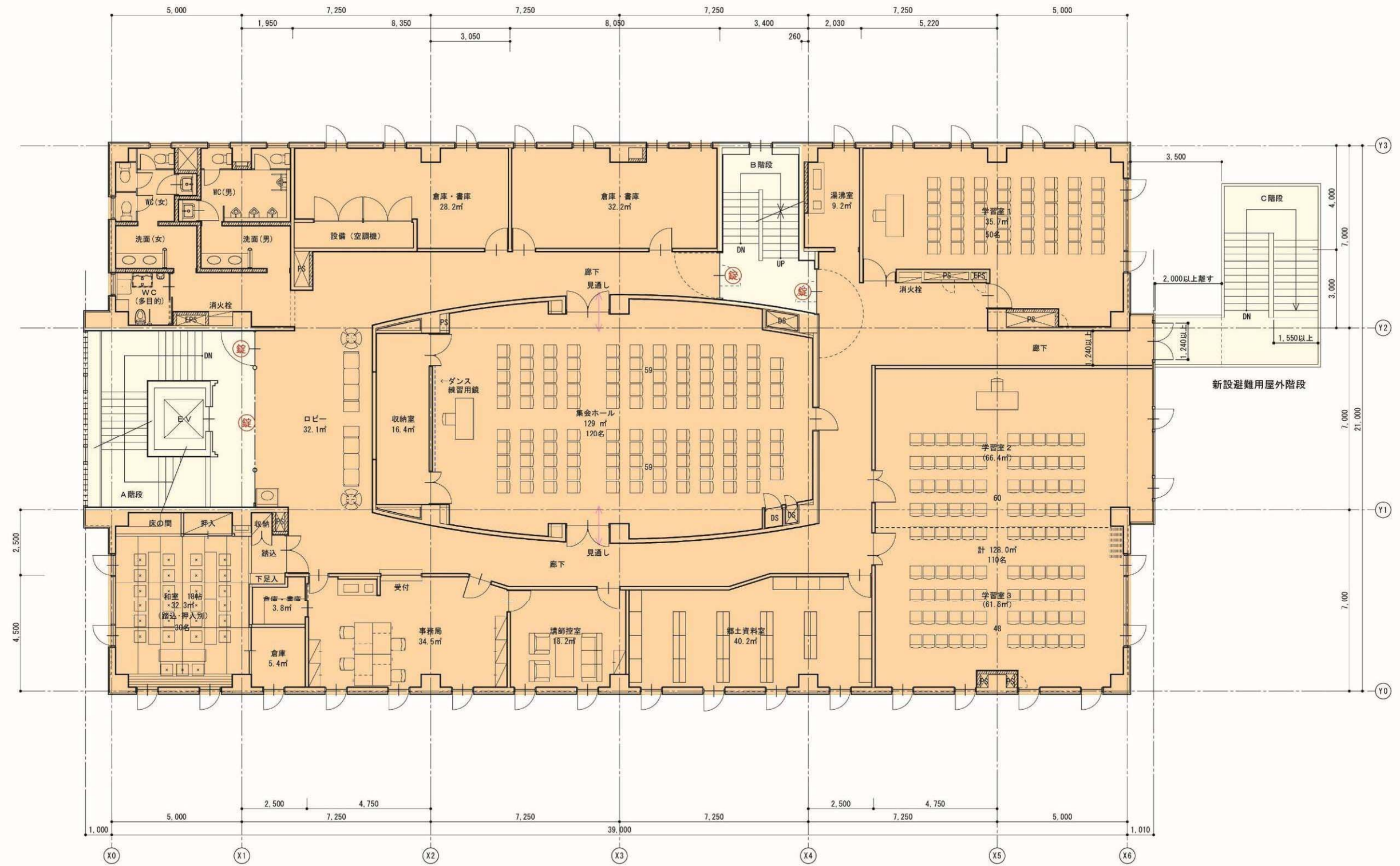
倉洲支所改修基本設計 配置 改修案



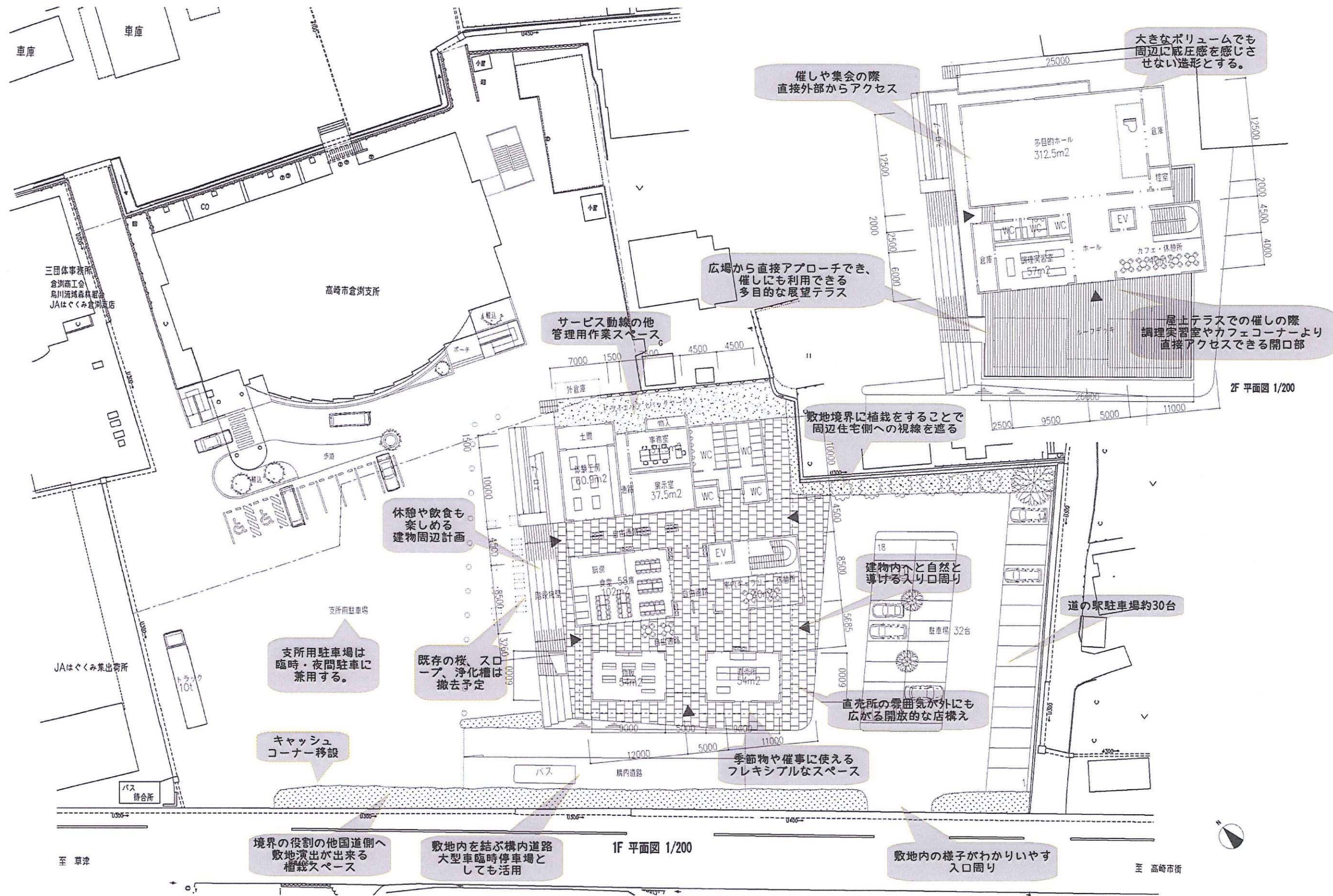
横引き折りたたみ戸

- 撤去 不可能な 既存コンクリート壁
- 撤去 可能な 既存コンクリート壁
- 公民館機能エリア
- 高崎市倉渕支所機能エリア
- 道の駅機能エリア
- 共用エリア
- 休日施設防火戸 (外側: 施錠) (内側: ヴァーン)





公民館機能エリア
 共用エリア
 休日施錠防火戸 (外側: 施錠) (内側: サムターン)



計画配置・平面図 1:200

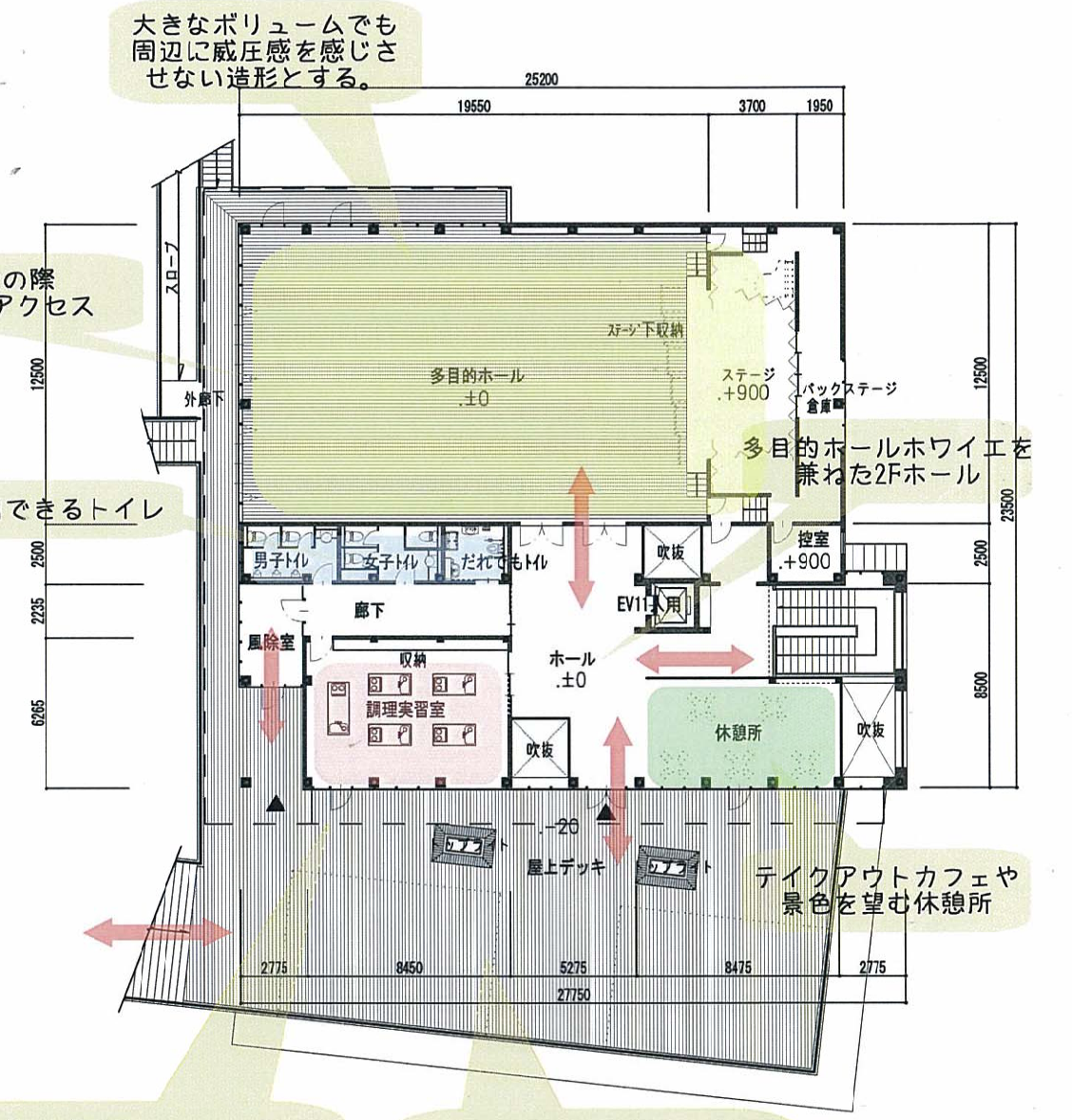
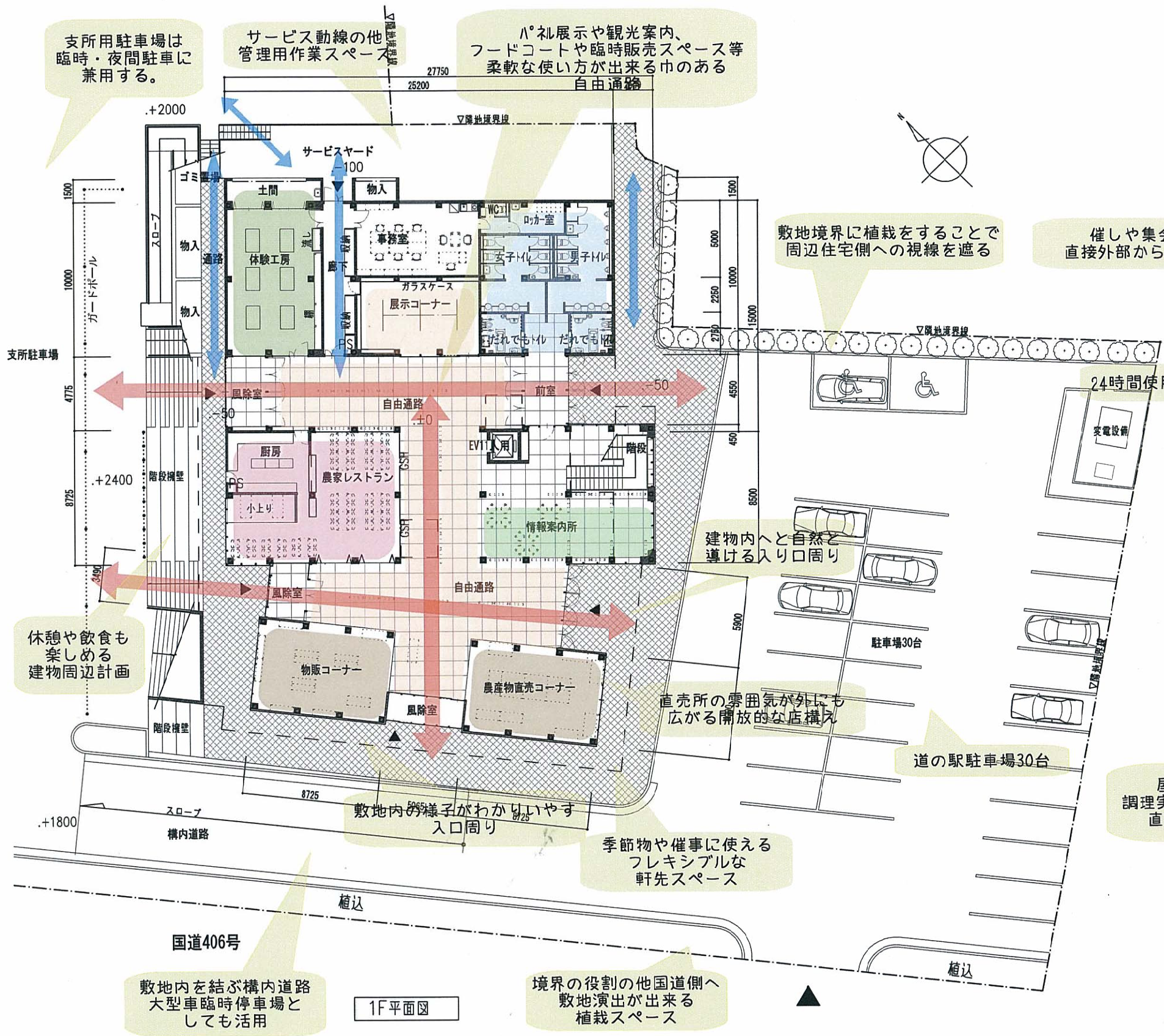
高崎市小栗の里拠点施設建設基本設計

合同会議による主な設計条件

諸室	階数	面積 (m2)	概要・特記
物販・直売所	1	約100	<ul style="list-style-type: none"> 農産物直売の他、日用品の販売も行うような店とする。 時期により販売スペースを増減できるようにする。 出店や臨時販売ができるスペースを設ける。 販売システムに必要な設備を設ける。
食堂 (レストラン)	1	約100	<ul style="list-style-type: none"> 定員は60名程度。椅子席、座敷等は以後検討。 テイクアウトもでき、それを飲食する場所を設ける。 店舗形式や運営方法については以後検討。
案内所	1	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 倉渚の観光施設(施設・自然・道祖神等)の案内を行う。 地元ネットワークの照会・活用方法の案内。 周辺施設の紹介だけでなく、連絡調整もできるようにする。 小栗公資料及び道祖神、倉渚の自然についての展示は動線上に設ける。 買い物やトイレ等の用事の際自然と目に付く位置とする。
展示ギャラリー	1	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 蠟画は空調管理ができる「展示室」(40m2)とする。 展示室は企画展示等も行えるようにする。 展示換えはパーテーション等を用いる。 独立して場を設けるものは最小限とし、回遊中に意識させる。 小栗公、道祖神、自然についての資料展示も自由通路等に設ける。 関連施設の案内も行う。
休憩所	1・2	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 一箇所にまとめて設けるのではなく分散して設ける。 休憩の他、飲食、喫茶、も行えるようにする。 通路やアルコーブなどと兼用し情報資料展示も行う。
体験工房		約60	<ul style="list-style-type: none"> 陶芸の他、各種工芸製作を行う。 汚れ物や水使用ができる半屋外空間を設ける。 直接外部へ出られるようにする。 物販商品の実演等も行う。
調理実習室	1又2	約50	<ul style="list-style-type: none"> 地元食材の販促にも利用する為、外部への動線も考慮する。 調理室で試食ができるよう蓋付の調理台とする。 多目的ホールや休憩カフェコーナーと連携して使用できるようにする。 講師用1台、生徒用4台設置。 既存調理備品が収納できるスペースをとる。
カフェコーナー	2	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 休憩コーナーと兼ねる。 専有やホールのホワイエとして使用を考える。 屋上テラスや烏川方面へ眺望をとる。

多目的ホール	2	約315	<ul style="list-style-type: none"> 既存公民館ホールと同規模程度とする。 控え室、舞台道具置場、舞台袖を設ける。 舞台形式は今後検討する。 調理実習、催事、普段の広場的な使用等柔軟に使えるようにする。
道の駅トイレ	1	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 多目的トイレを2箇所設ける。 男女トイレ数は全体計画とあわせて検討を行う。 位置がわかりやすいようなサインや入り口を検討する。 飲食と干渉させないようにする。 位置等検討を行ったうえで、トイレの持つ誘導性を利用する。
事務室	1	約40	<ul style="list-style-type: none"> ロッカー、湯沸、トイレを設ける。 防災設備、監視カメラ等の管理を行う。
倉庫		適宜	<ul style="list-style-type: none"> 外部倉庫を設ける。 道の駅、公民館それぞれ各諸室により適宜計画する。
	計	約1500～ 1700	
外構施設			<ul style="list-style-type: none"> 道の駅駐車場として約30台設ける。 身障者用駐車スペースを設ける。 支所前は既存のまま駐車場として扱う。 駐車場同士は構内道路で連絡させる。 テイクアウト飲食の場を計画する。 敷地演出につながる植栽計画とする。 桜に変わるシンボルツリーを検討する。 施設を遮る様な位置に高木は植樹しない。 計画に掛かる既存外構施設は撤去する方向で検討を行う。 (桜、キャッシュコーナー、浄化槽、渡り廊下等) 庁舎庇は形状を小さくし、植栽範囲も縮小する。

高崎市小栗の里拠点施設建設基本設計



2m前後の敷地段差を有効利用した計画において、梁サイズを小さくし階高を低く抑える為柱の間隔を短くし配置した。それは同時に耐震性能を高め、東日本大震災で大きな被害が報告された建物の変形による天井や内壁など二次部材の破損を抑えることにも有効である。又、各所室エリアと自由通路が壁などで明確に区別されず、柱によるあいまいな領域分けがなされ、フレキシブルな関係が創り出されることにも繋がった。